彙　　報

京都大学文学部西アジア南アジア史学講義題目（昭和39年度）

講義	教授	足利惇氏	西アジア南アジア史学序説
研究	〃	織田武雄	西アジアの近代化に関する地理学的研究
〃	〃	羽田　明	ウイグル文化史研究
〃	〃	岩村　忍	遊牧民族史の研究
〃	〃	藪内　清	イスラム科学史の研究（後期）
〃	助教授	棚瀬襄爾	東南アジアの社会と宗教
〃	〃	西田龍雄	北方タイ諸語の研究
〃	〃	本岡　武	東南アジアの人文地理学的諸問題（前期）
〃	講師	伊藤義教	ガーサーにおけるゾロアストラ
〃	〃	藤原利一郎	東南アジア華僑史の研究
〃	〃	藤本勝次	イスラム史の諸問題
〃	〃	恵谷俊之	モゴール王朝史の研究
研究	講師	岸本通夫	Arzawa 国の歴史地理
〃	〃	吉川　守	シュメール語の文献学的研究
〃	〃	岩本　裕	東南アジアにおける仏教
演習	助教授	大地原豊	梵語文法
〃	講師	伊藤義教	Textus Minores Pahlavici または Olaf Hansen: Mittelpersisches Lesebuch, Berlin 1963.
〃	〃	城崎　進	ヘブライ語文法
語学	教授	羽田　明	トルコ語
〃	講師	加藤一朗	ヒエログリフ講読
〃	〃	加賀谷寛	近世ペルシア語
〃	〃	〃	ヒンディ語
〃	〃	中西龍雄	マライ語
〃	〃	田中四郎	アラビア語（初級）
〃	〃	〃	〃　（上級）

本　会　会　報　ほ　か

○**本会例会**（昭和39年）―― **第1回**（総会）（日本オリエント学会関西部会と共催）：5月30日午後2時，於京大楽友会館，足利惇氏氏「イランの方言について」。○本会の振替口座は京都7293番，精々ご利用を乞う。

○**京都大学第4次イラン・アフガニスタン・パキスタン学術調査隊**は隊長水野清一氏の昨年末帰国（本誌前号参照）につづいて西川幸治氏は1月末，小野山節，小谷仲男，桑山正進の各氏は2月末帰国された。現地での作業はクンドゥズのバラ・ヒッサール及びドゥルマン・テペの発掘，バダクシャーンの踏査，ジェララーバードのバサワール石窟の予備調査（以上アフガニスタン），チャナカ・デリとメサ・ハンダの継続発掘及びタレリー寺院跡の新発掘（以上パキスタン）など。

○**京大東南アジア研究センター**は2月7日バンコクにて開所式を挙行。「**東南アジア研究**」第3号は3月31日発行，第4号は近刊（6月30日）の予定。

○**日本オリエント学会**の季刊「**オリエント**」Vol. VI, No. 3 は昨年12月20日発行，足利惇氏氏ほか諸氏の論文，No. 4 は本年3月20日発行，伴康哉教授（大阪外大）ほか諸氏の研究報告等登載。

本　会　会　員　消　息

○**日比野丈夫**氏（京大人文科研助教授）は京大東南アジア研究センターから派遣され昨年8月出発マラヤ，シンガポール，チュラロンコン各大学等にて東南アジア華僑の歴史的・社会的研究並びに現地における関係資料の調査を了え10月帰国された。○**中原与茂九郎**氏（立命館大学教授・本会前副会長）の「ケンギル都市同盟について―初期メソポタミア史の一問題―」（『史林』1964年第1号）は本誌 No. 10 所載の同教授の論文とも関連事項多数。同氏宅でのシュメール語テキストの演習は新刊書の書評をも交えて旺ん。○**岩村忍**氏（京大人文科研教授）は2月1日京大東南アジア研究センター所長に就任，2月7日バンコクの同センター開所式に参列の上同16日帰国，更に3月

（以下 p. 54 につづく）

側からでたものである。人々は神に従い，イマームの積極的命令(*amr*)と禁止（*nahy*）に服従し，神をもって，それ自身恣意的なものとみなすことこそ人々の義務である。人々がこのようにしないならば，はては神の義務的な御業に欠陥を生ぜしめ，自らの手で死滅を招くことになる。

103 問—イマームが御姿をあらわし，隠れた場所から外部にあらわれるとき，その御方を識別する方法はなにか。

答—イマームを識別する方法は，イマームの手であきらかにされる奇蹟によってである。

（筆者は大阪外国語大学助教授）

（p. 30 "彙報" のつづき）

9日京都発ワシントンのアジア研究会議に出席4月9日帰国された。 ○**織田武雄**氏（京大文学部教授・本会副会長）ほか諸氏の「西アジア」（誠文堂新光社：世界地理風俗大系12）は2月15日発行。 ○**薮内清**氏（京大人文科研教授）の「中国古代の科学」は2月15日発行（角川新書）。 ○**岩本裕**氏（京大文学部講師）の「仏教説話」（筑摩書房グリーンベルト・シリーズ），「仏教入門」（中公新書），「法華経」中巻（岩波文庫）は夫々2月15日，同25日，3月16日発行。 ○**川喜田二郎**氏，**梅棹忠夫**氏は夫々3月21日，同24日帰国された（本誌前号参照）。 ○**服部正明**氏（京大文学部助教授）はハーヴァード大学に研究後，欧州インドの諸大学歴訪の上3月27日帰国された。 ○**田村実造**氏（京大文学部教授）編「イブン・ハルドゥーンの『歴史序説』上巻」（アジア経済調査研究双書第107集）は3月30日発行。同教授の序のほか，イブン・ハルドゥーンの生涯（羽田明氏），「歴史序説」の内容紹介（田村実造氏），「歴史序説」研究の回顧と展望（羽田明氏）が付せられ，翻訳は**藤本勝次**助教授と**清水誠**氏が担当，田村・羽田両教授が訳文（pp. 47–572）の校閲に当たられたもの。 ○**村田藪之亮**氏（阪大文学部教授）は3月末停年退官された。 ○**応地利明**氏は名大文学部地理学助手に新任された（4月1日）。 ○**井本英一**氏（広大文学部講師）は大阪外国語大学助教授に，**古賀勝郎**氏も同外大講師に夫々転・新任された（4月1日）。 ○**足利惇氏**氏（京大文学部長・同教授，本会会長ほか）は3月末文学部長を任期満了され，つづいて京大東南アジア研究センター管理委員長，京大アメリカ研究センター副委員長をも辞任された。5月9日満63才を迎えられた同教授の記念事業会も近く始動の態勢にある。 ○**井上智勇**氏（京大文学部教授）は4月1日京大文学部長に就任，同10日には京大アメリカ研究センター副委員長に就任された。 ○**田中四郎**氏（大阪外大助教授）の「アラビア語文マタイ伝抜萃」は4月10日発行（大阪外大マナーラ会）。同氏には更にアラビア語関係の労作が進行中。 ○**羽田明**氏（京大教授・本誌編集長）はパリ大学都市の日本館々長として4月23日羽田発赴任された。任期2年の間，明代から清代初期へかけての中央アジア史の諸問題をも研究調査される。 ○**杉勇**氏は4月24日羽田に帰着された（本誌前号参照）。 ○**岸本通夫**氏（大阪市大助教授）5月10日羽田発，トルコ，オーストリア，チェコ，ドイツ，ベルギー，仏，英，スペイン，イタリア諸国の各大学及び研究所を歴訪，仏語学，ロマン語学及び言語学の研究，並びに同教授法調査の上7月28日帰国される予定。 ○**佐藤長**氏（京大文学部助教授）の「フゥラン・テプテル」（舘葉正就氏と共訳）は5月20日発行（法蔵館）。 ○**吉田光邦**氏（京大人文科研助教授・本誌編集部員）は京大東南アジア研究センターから派遣されて6月1日発，東南アジア諸民族の物質文化の研究調査のためタイ及びマレーシア連邦に赴き6月末帰国される予定。 ○**棚瀬襄爾**氏（京大文学部助教授）は同上研究センターから派遣されて6月1日発，東南アジア，主としてマレーシア人社会の文化人類学的研究調査のためマレーシア連邦を主とし，その他タイ，インドネシア，フィリピンをも歴訪後10月1日帰国される予定。